

竹中直人×生瀬勝久 個性派俳優の激突!! 竹生企画 三たび実現!

Toho & cube present

火星の二人

作・演出=倉持裕

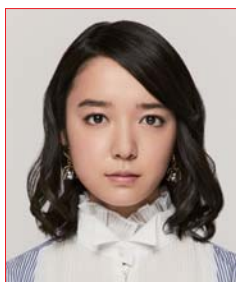
大事故から奇跡的に生き延びた男(竹中直人)は事故の後、廃人の様になっていた。
そして彼の息子も人が変わったようになり、その恋人(上白石萌音)は悩んでいた。
そこに、やはり同じ事故から生還した男(生瀬勝久)が訪ねて来る。
生死の境が曖昧になってしまった男と、同じ経験からむしろ活力をみなぎらせている男の、恐るべき因縁……
そんな二人の果てしなき口論から垣間見える、生き抜くことを巡る物語。



竹中直人



生瀬勝久



上白石萌音



池岡亮介



前野朋哉



高橋ひとみ

今回のヒロインは鹿児島出身の上白石萌音!

竹中直人×生瀬勝久×倉持裕 | 演劇界の強者タッグによる「竹生企画」第三弾が始動。
今回のヒロインに、女優としてはもちろん、歌手としても大活躍中の上白石萌音(鹿児島出身)が決定。透明感のある演技に定評のある上白石と、竹中、生瀬をはじめとする個性的な出演者たちが繰り広げる絶妙な台詞の応酬と濃厚な演技合戦にどうぞご期待ください。

2018年 **5月29日(火)** 18:00開場 18:30開演 **鹿児島市民文化ホール(第1)**

料金(税込):全席指定 S席 8,500円 A席 7,500円 (当日は500円増し)

U-25 4,000円(鑑賞時25歳以下対象・当日指定席座席券交換・要身分証)

※未就学児入場不可 ※病気その他の事由のため、出演者が変更になる場合がございますのでご承知おきください。

《おトクな券を設定しました》

2枚以上購入で各席500円引き!

【例】S席2名様の場合 S席 8,000円×2枚=16,000円
※ご予約時におトクシート希望とお申し出ください。

予約方法=鹿児島音協事務局のみ

《WEB予約》スマホやパソコンから、
チケットのWEB予約ができます!

《郵送販売》◎郵便振替口座:02070-8-39259

◎加入者名:鹿児島音協

*振込手数料、返送料500円はご負担ください。

*お振込の際は郵便局備え付けの青色の払込取扱票をお使いください。

前売券好評発売中!

一般発売開始 2月13日(火)

よい席は、お早めに。

■主催:南日本新聞社、鹿児島音協 ■協力:ピクニック ■企画・製作:東宝、キューブ ■主催協力:トヨタカローラ鹿児島 ■前売券発売所:ファミリー
マート店頭、イープラス <http://eplus.jp/>、チケットぴあ tel.0570-02-9999(Pコード 484-114)、ローソン tel.0570-084-008(Lコード 81575)、南日本
新聞販売所、山形屋、十字屋クロス、鹿児島市民文化ホール

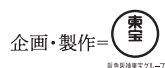
■お問い合わせ:鹿児島音協 tel.099-226-3465(9:00~17:00 土・日・祝は除く) <http://www.kagoshima-onkyo.gr.jp>

<STAFF>

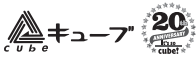
音楽=栗コーダーカルテット 美術=中根聡子 照明=倉本泰史 音響=高塩 顕 衣裳=坂東智代 ヘアメイク=宮内宏明 演出助手=松倉良子 舞台監督=菅野将機

宣伝美術=東 學 宣伝写真=消 忠之 宣伝衣裳=森宗大輔 宣伝ヘアメイク=宮内宏明 冨永朋子(上白石萌音 担当)

プロデューサー=高橋典子(キューブ) 田中利尚(東宝) 制作=川上雄一郎(キューブ) 福本悠美 制作助手=嶋口春香 広報宣伝=米田律子(キューブ) 製作=北牧裕幸(キューブ)



企画・製作=



詳しくは公式HPへ
<https://kaseinofutari.amebaownd.com>



竹中×生瀬企画

竹生企画とは…生瀬勝久のなかに芽生えた「竹中直人さんと二人芝居がやりたい!」という俳優ならではの「欲望」。そんな「欲望」を発端に、屈指の超個性派俳優であり、クリエイターでもある竹中・生瀬二人のユニット「竹生企画」は誕生した。当時、竹中が「一緒に芝居づくりを」と熱望していた倉持裕を劇作・演出に招き、ヒロインには竹中・生瀬の二人がぜひ舞台で共演してみたい旬な女優さんを迎えたいというサブ・ルールを携え2011年に始動。第一回公演「ヴィラ・グランデ青山〜返り討ちの日曜日〜」は、ヒロインに初舞台となる山田優を迎え、東京・シアタークリエ他、国内8都市を、2015年の第二回公演『ブロッケン・妖怪』では、ヒロインに同じく初舞台となる佐々木希を迎え、東京はシアタークリエとシアター1010の2カ所で大上演し、北は岩手、南は鹿児島まで、全国10都市を巡り、両作品ともに倉持裕独特の物語を独自のシニカルな視点で切りとり、緻密なストーリー展開を保ちながら、竹中、生瀬をはじめとする個性的な出演者たちの絶妙な台詞の応酬と間で観客を引きつけ好評を博しました。